International Institute of Multi-cultural Studies

特定非営利活動法人

国際比較文化研究所

Newsletter

Vol.　１０　No.　1　　2009 年　5 月

鷺の宮卓話

所長　太田敬雄

ミッシェル・オバマといえば知らぬ人は無い。世界の注目と期待を一身に集めているオバマ大統領の夫人として公的な場に出ることも多く、大統領を支える大事な存在である。私がこのファースト・レディに注目したのは彼女がシカゴのサウス・サイド育ちという点だった。彼女が生まれた一九六四年前後、私はシカゴ郊外の小さな町の、小さな大学で学んでいた。

休日にはしばしばシカゴまで出かけたが、そんな私が何度となく注意されたことは「危険だからサウス・サイドには行くなよ。」だった。その地域で伝道していた日系人牧師がこんな話をしてくれた。「これまで十年ほどの活動の中で、何百人もの友人をナイフや銃で亡くした。」彼の「友人」とは、彼が救済しようとしていた、若者達だ。そのサウス・サイドでミッシェル夫人は生まれ育ったのだ。

１９６６年、イリノイ州の大学を卒業した私は、オハイオ州のクリーブランド市に数学教師として採用され、そこで半年間教員として過ごした。私の勤めた高校はスラム街のマンモス高校。そこでの半年で私は幸運にも拳銃にこそ出会わなかったが、その他のありとあらゆる問題を経験させてもらった。

そこでの体験の中に、私の教員としての姿勢を変えさせられた出来事がある。ある日、一人の男子生徒が授業の後で私のところに来て、親からの手紙を神妙に差し出した。手紙には「我が家ではこの子叩いて育てています。もしも学校で問題を起こしたら、先生、この子を殴ってください。私たちは先生を信頼し、全面的に先生をバックアップします。」

体罰の問題はさておき、私はこの手紙に犯罪のあふれるスラム街に住むしかない状況の中で、必死の子育てしている親の姿を見た。当時、アフリカン・アメリカンの人々は大都市ではスラム街以外に住居を得ることは不可能に近かったようだ。その日から私のスラム育ちの生徒達を見る目が変わった。

子どもにとって大事なことは、育った場所ではなく、また経済状態でもなく、家庭においてどのように育てられてきたかにある。ミッシェルの母親は、子育ての間、仕事を持たず母親であることに専念していた。そして今、ミッシェルはファースト・レディとしての最も大事な役割は子育てであるという。

奴隷の子孫（現在「奴隷」は差別用語として使用をしないことになっているが、オバマ大統領があえてそう使用したことに敬意を表し、大統領にならって使用させていただく）であるファースト・レディは大統領以上にアメリカン・ドリームの実現者である。そして彼女はいま無言の内に家庭の復権を訴えている。

これからの社会にミッシェルに倣う親の多く出ることを祈る。それなしには健全な社会は決して育たない。

＜「上毛新聞」『オピニオン２１』2009．3.19．の筆者記事に加筆修正＞

2009年度ＮＰＯ法人国際比較文化研究所総会のご案内

今年も総会の季節がやってきました。この一年の活動を振り返り、これからの一年の在り方を考える大事な時です。今年は少し遅くなりますが、下記の要領で総会を開催しますので、皆様ご多忙の中恐縮ですがご出席くださいますようお願いします。なお同封の葉書で出欠の予定をお知らせ下さい。またご欠席の場合は必ず委任状に署名押印して下さい。

記

１、　日時：2009年5月31日（日）午後3時30分～4時30分
２、　場所：安中市　東横野公民館
３、　議題：
（１）2008年度事業報告
（２）2008年度収支決算報告
（３）2009年度事業計画
（４）2009年度予算計画
４、報告：
（１）多文化交流in台湾2008
（２）多文化交流inマラン2008
（３）その他の多文化交流プログラム

４、理事会：総会に先立って５月31日午後1時半から理事会を開催します。会場は総会会場と同じです。理事・監事の方々のご出席をお願いします。

多文化交流inマラン２００９へのお誘い

今年は8月11日から18日にかけて、インドネシアのマランへ交流の旅を実施します。ちょうどお盆の期間になりますが、八月後半からインドネシアはイスラム教の人々が断食をするラマダンになるので少々時期を早めました。

留学でも観光でもない、人と人の交わりを最大の目的としたプログラムです。マランの参加者はブラウィジャヤ大学で日本語を専攻する学生と卒業生達です。

☆プ ロ グ ラ ム 概 要☆

日　時：２００８年８月１１日（火）～８月１８日（水）８泊９日（含機内１泊）
参加費：１５万円（ビザ取得代＜25ドル＞・旅行保険・一部食費等別）
募集人員：約20名（15名にて実施）申込順。定員になりましたら締め切ります。
申込締切５月２０日
参加資格：18歳以上の健康な方。　使用言語：日本語
集合・解散：成田空港（スラバヤ空港・台北市の桃園空港からの参加も可。）
滞在先：スラバヤ市のホテルで一泊。他は国立ボラウィジャヤ大学のゲストハウスでの宿泊になります。

参加ご希望の方は至急ご連絡ください。（パスポート、予約金はその後で結構です。また、他の方々、特に若い人々にこのプログラムをご紹介いただけると幸いです。

必要な方にはチラシ／参加申込書をお送りしますのでご連絡ください。

2008年度を振り返って

2008年度には結局ニューズレターを一回しか発行できなかった事が何よりも残念です。会報でしか研究所の動きを知っていただくことの出来ない会員も多く、その大勢の皆様に対して真に申し訳ないことをしました。ここにおおざっぱにではありますがこの一年間の研究所の活動を記して、遅ればせながら御報告とさせていただきます。

１、**「アニメの世界に韓流ブームは起こるか！？」**と題した懇談会を７月４日に安中市東横野公民館で開催しました。講師は学生時代に一年間早稲田大学に留学していた許平康（ホ・ピョンガン）さんで、現在日本のアニメ制作会社マッドハウスで活躍中。これまでに許さんが関わった作品には「デスノート」第 22 話～最終話（設定作成、助演出)、メイプルストーリー第８話（演出）などがあります。

当日は平康さんの作成した映像の鑑賞から始まり、アニメ作成のもろもろの体験など、興味深い話を聞くことが出来ました。たった一年しか留学していなかった平康さんの達者な日本語にも関心させられました。

なお、許平康さんの協力と同行を得て、３月末には釜山、デグ、キョンジュ（慶州）の視察に行ってきました。

来年の２月には「多文化交流 in 釜山」を実施する計画を練り始めています。

この旅では許さんのお母さんにも大変お世話になりました。

２、**「ディオンとの懇談会」**

許さんを囲んでの懇談会の次は大阪大学の留学生、ディオンさんを招いての懇談会でした。８月１９日に前橋市民活動支援センターで開催しました。ディオンさんは２００７年度の文部科学省奨学生として招聘され一年間日本で学んでいました。

大阪から夜行バスで群馬に来る予定でしたが、バスに乗るのに５分遅れたため、予約チケットを持っていたにもかかわらず、乗りそびれてしまったというハプニングもありました。

国によって時間の感覚ガ大きく変わるので、彼女にはショックだったことでしょう。

３、**「ぐんまＮＰＯフォーラム」に参加**

８月２３日に前橋の県庁昭和庁舎で開催された「ぐんまＮＰＯフォーラム」では

ＮＰＯ仲間の「スピリットネットワークぐんま」、「ミュージックフォーチルドレン」、「工房あかね」と研究所の四グループで「文化・芸術分科会」を担当。研究所が担当した「日本から見たアジア、アジアから見た日本」では台湾出身の Vivi さん、文部科学省奨学生として一年間、インドネシアのマランから東京学芸大学に留学していたキャンディさんと太田がパネラーとなり、フロアからの声も受けながら楽しい語り合いの時を持ちました。

４、そのキャンディが一年間の留学生活を終えて帰国する時には太田の家でインドネシアで知り合った他の学生たちと共に送別の時を持ちました。

インドネシアでは魚は素手で食べるとのこと。それまで箸で上手に食べていたキャンディにインドネシア風に食べてもらいました。写真に写っていませんが手で食べるキャンディの表情がとたんに「美味しい！」と語り始めたのが印象的でした。

写真はサンマを無心にむしっているキャンディです。真似てみましたがキャンディのようにきれいには食べられません！

４、「多文化交流 in マラン２００８」

第二回目のインドネシアのマランでの多文化交流は、参加者は一五名弱でしたが、第一回に劣らぬ素晴らしい出会いの
一週間となりました。参加者も関東からの学生を中心に静岡や長岡からも与えらたことも喜びです。しかし、このプログラムの何よりの誇りは、一週間の交流に終わることなく、帰国後も交流が続いていることにあります。マランのブラウィジャヤ大学から日本の文部科学省奨学生として留学して来た学生や、台湾でのプログラムの参加者で留学生として来日している学生たち、さらにはその留学生仲間達との交流の深まりと広がりは何よりの宝です。

今回の旅では海水浴にも行きました。けれどもイスラムの女性は水着にはなりません。人前で肌をさらすことは禁じられているからです

でも若者は若者。そんなことでは、めげてはいません。着衣のままどんどん海に入っていきます。(写真は次のページ)

マランの町の道路には信号がほとんどなく、交差点はロータリー式になっていま

す。細い道の真ん中にドラム缶を一つ置いて、それをロータリーにしている所がありました。もしかするとこちらの方が信号よりも安全かも知れませんね。

海水浴？風景

ドラム缶ロータリー

５、朱坤霞（シュ・コンカ）さんとの懇談会を９月２８日に高崎哲学堂で開催しました。

朱さんは中国の山東省出身の声楽家で、現在前橋市に在住です。演奏活動の他に、日中友好活動にも活躍しておられます。素晴らしいメゾソプラノに堪能した午後でした。

写真は朱さんをお宅にお送りした折に写した、ご家族の写真です。ご主人と子どもさんたちと一緒になって朱さんも嬉しそうでした。朱さんが懇談会に出ているあいだ、ご主人が子どもさんたちの面倒を見ておられました。

６フィンディ来日

マランの第一回プログラム（２００７年）でマラン側の参加学生として活躍してくれたフィンディが１０月に文部科学省奨学生として群馬大学に来ました。面接の時には「なぜ群馬大学を選んだのか」と聞かれ、彼女は「群馬には大勢の友達が居るから」と答えたそうです。「大勢の友達」はマランで会った日本人学生達のことです。

そのフィンディは来日早々に、群馬大学の留学生を代表して上武大学で開催された群馬県留学生交流推進協議会主催の「日本語スピーチコンテスト」で優勝しました。

マランのブラウィジャヤ大学の日本語教育のレベルの高さが証明されたようです。

フィンディの群馬大学留学は、研究所の活動にも大きな影響を与えてくれました。その一つは群馬大学の大勢の留学生とのパイプ役になってくれたことです。

７、「多文化交流 in 草津２００８」

フィンディが留学生仲間と、過去の多文化交流（マランと台湾で実施）の参加者をつないでくれました。そのつながりをベースに留学生と日本人学生の交流の場として「多文化交流 in 草津」は２００８年の年末、１２月２５日から２７日にかけて２泊３日で開催されました。参加費はスタッフも含めて１人 9000 円。ただし、留学生には皆さまからのご寄付を活用させていただき、１人 2000 円を研究所から補助しました。

参加者はインドネシア２人、韓国２人、台湾４人、アメリカ１人。日本人参加者はスタッフとして協力してくれた群馬県立女子大の学生たちと、そのスタッフをまとめてくれた研究所理事の関千景さん。そして当日参加してくれたのは日大、東洋大、高崎経済大、長岡技術科学大の学生たち。昔の学生も二人ほど参加。それからもう一人、クリスマスとあってサンタの飛び入り参加がありました！総勢２３人！

この交流もできれば今後も継続したいと思います。自炊生活の質素な集りでしたが、留学生の参加者にとっては決して安い経費では無かったことでしょう。

プログラム初日、雪はほとんど無かったのですが、夕方から降り始め次の朝は大雪になっていました。南国からの留学生にとっては雪は初体験。素敵なクリスマスプレゼントになりました。大雪の中に出かけて行った若者たちは雪まみれになって戻ってきました。

８、**餅つき**

草津から帰って間もなく、草津メンバーの仲間９人が次々と東横野の太田家に集合。みんなで夜には咲前神社を見学、ちょうど宮司さんが居て神社を紹介して下さいました。

神社からお土産までいただいて帰宅。みんな喜んでいました。

翌日は、皆で臼とキネで本格的な餅つき。ついた餅は絡み餅にしたり、あんころ餅にしたりワイワイと騒ぎながらも、大いに楽しみ、大いに食べました。

欧米の人はお餅を苦手とすることがしばしばありますが、アジアの学生たちにはなじみやすい食べ物だったようです。

９、**ルミとアンドレスの送別会**

春に帰国する台湾のルミとアメリカのアンドレスの送別会は、１０名程度の小さな集まりでしたが、磯部温泉の「ホテル磯部ガーデン」さんの御好意で同ホテルの宴会場で開催。

客室を見学させていただいた後は、温泉を満喫しました。ホテルからは記念のお土産も頂戴しました。

☆これからの課題

この一年をこうして振り返ってみますと、研究所の課題が見えてきます。学生を主たる対象としたプログラムは比較的順調に実施されてきていますが、会員を主たる対象とした懇談会などは参加者集めに苦労する状態です。会員の皆様にも喜んでいただける企画は無いものかと思案中です。また会員以外の参加者の募り方も課題です。

もしも良いアイディアがありましたら、ぜひともご連絡ください。よろしくお願いします。

２００９年度企画－英語教室

今年度、新たに取り組む予定の企画に小中学生を対象とした英語教室があります。まだ詳細は煮詰まっておりませんが、太田琢雄（米国の大学卒業。日本の高校教員免許取得）を講師に予定しています。

安中の原市辺りでの開催を考えていますが、ご意見やアドバイスなどございましたらお聞かせ下さい。

☆会費納入とご寄付のお願い☆

この一年間、会報を出せなかったことが一番の原因ですが、２００８年度の会費の集まりは余り芳しくありませんでした。振込用紙を同封しますので、研究所の活

動をお支え下さい。年会費は個人が２０００円です。
　今年は振り込み経費は会員の負担にならないように振込用紙の種類を変更しました。これによって振込手数料を追加でお支払いただく必要がなくなりました。

☆インドネシアからの学生招聘事業☆

　昨年は冬の最中にイチャさんとウィラスティさんの二名を招聘出来ましたが、今年の招聘はまだ実施出来ていません。今のところ何とか一名を招聘出来そうなところまで皆さまからのご寄付を頂戴しております。このプロジェクトをお支え頂ける方は「招へい寄付」と明記の上寄付金額を記してお振込み下さい。会費と同時にお振込みの場合には会費〇〇年度分、招へい寄付、に分けた金額のご指定をお願いします。
　もちろん、特に使用目的を指定しない一般寄付も可能です。有難く多文化理解推進の活動に生かさせていただきます。

会費・寄付（２００８．９．１１～２００９．４．２５）

　昨年度は会報の発行が極端に少なかったにもかかわらず、多くの会員に研究所の活動を覚えていただき、会費をお振り込みいただきましたこと、心から御礼申し上げます。なお、領収書を発行しておりませんので、ここにお名前が無かった場合は必ず事務局の方にご一報をお願いします。
敬称略、順不同
＜新入会員＞　太田琢雄（08）
＜会費＞会費納入、有難うございました。研究所の活動を支え続けていただきありがたく感謝しております。　ベーケン恵（08）、星野富男・敏子（08/09）、倉沢淑子（08）、高橋強（09）、中澤宏則（08）、逸見智恵子（07/08/09）、中嶋敬子（07/08）、村中祐生（08）、中村尚雄（07/08）、小倉寿（08）、水木健一（08）、森泉孝行（08）、吉村耕治（08）、本島靖子（08）
＜寄付一般＞　星野富男・敏子、倉沢淑子、鳴海真澄、村中祐生、太田知子、吉村耕治、朴敬二、多文化交流 in 草津参加者一同
＜「インドネシアより招聘」指定寄付＞ 菅ケ谷由美子（4 月 25 日現在計：218,142 円。これで今年一人の学生を招聘することが出来ます！

編集後記：☆昨年度、結局一度しか会報を発行することができませんでした。多くの会員にとって会報を通して以外には研究所の活動に参加していただく方法も、また研究所の活動の様子を知っていただく方法もないので、今年こそ定期的に会報を作成していきたいと決意をあらたにしています。
☆ホームページもこれからは少しづつ更新してまいります。時折覗いてみて下さい。
（太田記）

Newsletter 発行：特定非営利活動法人国際比較文化研究所
事務所：〒379-0124 群馬県安中市鷺宮３４１３－３
電話：027-382-5998　FAX：027-382-6393
e-mail：mtharunac@xp.wind.jp
郵便振込口座番号：00510-0-61974　　名称：国際比較文化研究所